【公民館作成】　事業評価資料　　臼井　公民館　No. 1

事業名	おはなし会				
ジャンル	家庭教育 ・ 青少年教育 ・ 成人教育 ・ 団体育成				
事業分類	実際生活に即する教育 ・ 学術及び文化に関する各種の事業 （社会教育法第20条「公民館の目的」より）				
事業意図	住民の教養の向上 ・ 健康の増進 ・ 情操の純化 （社会教育法第20条より）				
事業目的	生活文化の振興 ・ 社会福祉の増進 （社会教育法第20条より）				
日程	令和６年　８月２１日 令和６年１２年２１日	講師	かたりべの会	参加費	無料
対象者	幼児から一般（保護者）	参加者数（延べ）	第１回　４０人 第２回　３１人	募集方法	こうほう佐倉 チラシ配布
趣旨	子供たち向けに、すばなしと絵本の読み聞かせ等によるおはなし会を実施することで、本の世界に親しむとともに豊かな感受性を育むことを目的とする。				
内容	すばなし、絵本の読み聞かせ等によるおはなし会。				
工夫	参加者の興味・関心が途切れないよう、すばなし、絵本の読み聞かせ、テーブル人形劇などを取り交ぜ進行している。 事業の実施時期に合わせた内容の話を選定している。				
成果	本に親しむことで、想像力・知的好奇心が育つ　集中力がつく　など様々な影響が生じる。 おはなし会での読み聞かせに直に触れて、良い読み方を感じてもらい、家庭でも読み聞かせ行ってもらうことで親子のコミュニケーションが深まる。				
課題	公民館事業費が削減されているため、講師謝礼の減額や公民館事業実施回数などの縮小について検討が必要となっている。				

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	・公民館が行う必要があるか。　・目的や役割が薄れていないか。 ・市民や利用者のニーズに合っているか。　・事業の休止・廃止した場合の影響は大きいか。
優先性	A	・事業の優先度は高いか。
公平性	B	・対象者に情報は流れているか。　・受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	A	・期待通りの成果が得られているか。 ・さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。　・市民の満足度は高いか。
効率性	A	・事業の効率性はどうか。　・他事業との統合は考えられるか。 ・事業運営に学習者が参画しているか。
総合評価	A	A：適切で成果が得られている。　B：課題あり、成果はある程度ある。 C：課題あり、成果があまりない。　D：成果が得られていない。
特記		

《凡例》
良い　A　B　C　D　良くない

《判定例》
A A A → A
A B A → A
A B B → B
A A → A
A B → A or B

次年度展望	②	①：事業拡大　②：現状規模で継続　③：事業縮小 ④：目的達成により終了　⑤：統合・改善・その他

☆公民館運営審議委員付帯意見

（A：適切で成果あり　B：成果はあるが、改善の余地あり　C：要改善）

委員①	
総合評価	B

読み手として、一般や高校生等の活用を検討し、両者にプラスがある形を検討するのもよいかもしれない。

委員②	
総合評価	A

親子で参加できるのが最大のメリットであると考えます。ただでさえ、本離れ・図書館離れが昨今叫ばれている中で、一番興味・関心を抱くであろう世代の子どもたちにとって有効ではないでしょうか。また、本来それをしてあげるべき立場の親にとっても勉強の機会となります。ただその一方で、講師不足・謝金不足も現実的な問題としてあることを知り、悩ましいことだと受け止めました。

委員③	
総合評価	A

　図書室中心の企画である。親子企画は、有意義である。タブレット世代だけにゆったりとした本の語りは、ありがたい。

委員④	
総合評価	A

図書館のスペースがないので、このように公民館と図書館が連携しながら進めていくことが必要だと思う。参加者も多く、参加した人には充実した時間になったと推察される。

委員⑤	
総合評価	B

図書館事業かと思うところはあるが、図書館と同じ場所と考えると妥当かと。

委員⑥	
総合評価	A

市民の書店が次々と閉じている中で読書の必要性、楽しみ方を目的とした本事業は大いに工夫が見られ今後のあり方が楽しみとなっています。当公民館は多機能施設を抱え、且つ駐車場も多く有して、市民が集まり易い施設です。その故でも管理面では難しい課題もあると思われます。

委員⑦	
総合評価	A

　図書室併設という施設の特徴を活かした家庭教育事業で、子どもたちにも支持され、各回想定以上の参加者を得ている点、意義あることだと評価します。市民グループの参画で運営されることも重要なポイントで、団体育成の観点からも継続して欲しいと思います。予算獲得が厳しい状況の中でも可能なら、市民音楽ホールとの連携も視野に入れ、おはなし会と楽器演奏のコラボはいかがでしょう。子どもたちの感性をほどよく刺激し、健やかに育てるあらゆる方法に挑戦してください。

委員⑧	
総合評価	A

臼井公民館が持っている環境の魅力を一層地域に伝える場になっている事業は、回数をもっと増やしても良いかと思います。すばなしの楽しさを何度も味わってもらえる取り組みが期待されます。子どもが楽しんで足を運ぶ公民館が見えます。読み手や話し手を誰にするかが課題かと思いますが、臼井地区には人材がたくさんいるはずです。公民館が中に入って広めていくことで可能になると思います。

委員⑨	
総合評価	B

委員⑩	
総合評価	A

小さなお子さんとご家族の皆さんの多くは図書館でこの企画を知り、参加していると伺いました。事業発表の中にもありましたが、講師の皆さんの自己満足に終わらないように工夫をしていただきながら継続していただきたいです。これは全公民館全事業についていえると思います。

委員⑪	
総合評価	A

公民館が図書館に併設されている好条件で両者が共同で実施することは意義のある事業だと思います。若い親の代が公民館を訪れるのも今後の公民館事業に良いことです。
本事業の課題に記されている内容は、この事業の内容ではなく、全公民館活動における課題だと認識します。公民館事業の講師謝礼、保険、交通費、委託料負担等明確にする必要があるように考えます。

委員⑫	
総合評価	A

参加者の反応を見てみても極めて満足度の高い事業であろう。特に会場で漏れ聞こえた会話から、以前に兄妹と共に参加した親がその弟妹を連れてきていることも解り、継続性が有意義に働いているものと評価できる。ただ、本事業の講師選択や講座内容は全て委託しているボランティア任せであり、そのボランティアとの接点は図書館だという。臼井公民館は複合施設故の特徴ともいえるが、評価対象事業とするのは如何なものか。

委員⑬	
総合評価	A

ゲームばかりやっている子ども達には、おはなし会は、大切な事業です。実施回数をもっと増やして、子供達が本と出会える機会を多くする必要があると思います。

委員⑭	
総合評価	B

事業内容の見直し
　対策：費用対効果の高い事業に重点をおき、内容を見直す。
・講師にボランティアを依頼する工夫
・材料費を削減する
・他の団体と連携し、共同で事業を実施

委員⑮	
総合評価	A

素話とは語り手の技量が問われるので講師ファーストになっていないか等、子供目線で考える必要があると思います。